

ヘレンベルグ：プロテスタント教会におけるグロッケン(鐘)・ミュージアム

ヘレンベルグの象徴とも言えるプロテスタント教会は、1276—1493年の間、2回の建設期間を経て、ドイツ南部では初めての後期ゴシック様式教会として完成されました。そして、1749年には、当時老朽化していた木骨造りの教会塔が、玉ネギ型をしたバロック様式のドームへと置き換えられました。

それ以来、広い塔屋根の下は2階建ての部屋となり、その大きさでは珍しい、‘鐘の部屋’としての空間を提供し続けています。

貴重な800年代の鐘5つと併に、他には比類のない鐘の収集場所として理想的な場所を提供してきました。

1990年に11の鐘の展示がされ、ミュージアムとしてオープンしました。

その間、ミュージアムは、他の多数の鐘と併に、青銅鐘30個以上を展示し、大規模なリュートアンサンブルを保有するに至っています。これらの鐘が醸し出す音色は、その地理的、歴史的、音楽的な多様性から見ても、国内外を問わずトップレベルに匹敵するものでしょう。

グロッケン・ミュージアムのモットーは、「見学者が単に鐘を見るだけでなく、動きとして（鳴り響くのを）見る」、「鐘が単に鳴るのを聞くだけでなく、声量豊かな響きを感じる」、そして、「鐘という大きな楽器を単に触れるのではなく、その鐘の響きの波を体全体で感じる」というものです。このような総体的に鐘を感じるということは、他の鐘博物館では経験できないものでしょう。